HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	芒亭書屋談叢
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 109
Issue Date	1940-06-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77652
Type	article
File Information	A018_02_03all_Part39.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

各務時報

昭和十五年六月廿二日印刷
昭和十五年六月廿五日發行
岐阜高等農林學校學友會
編輯兼發行者　伊藤隆夫
岐阜市今澤町二ノ二
印刷者　若山才治郎
岐阜市今澤町二ノ二
印刷所　若山商會印刷所

芒亭書屋談叢

五畝ばかりの或る一劃の畑に甚だ異樣な作物があるので、何が作つてあるのかと物好きに少し近寄つて見ると、其は一面に雜草が生えて居るのであつた。魚釣りに行く途中での事である。更に近づいて見て私が驚いたのは、其雜草の一群は人爲的に植ゑてもこれ以上に密生繁茂させる事は出來ないであらうと思はれる位よく茂つて居る事であつた。どの畑地でも半年も捨て置くならば皆こんなにも雜草の原になるものかとしみ〴〵感じた事であつた。そしてその周圍の麥畑を見て其整然たる經營に今更らの樣に頭が下がる思ひをした。

日本農業の一つの特異性は雜草刈除の爲に甚だしく多くの勞働力を用ひて居る事であると云はれて居る。太洋と大陸とモンスーン地帶に對する特殊の位置に置かれて居る日本の世界的に極めて特異な多濕性の氣候と其地質とが雜草の繁茂に最もよい條件を與へて居るからださうである。然らば日本の農民は過去何千年來不斷に雜草と戰つて來たし、又何時迄も戰つて行かなければならぬ宿命を持つて居る。

無味乾燥な除草作業は極めて苦痛多き作業である。其は他の作業に見る樣な烈しい一時的な勞働は要しないが、何の變化もなく何等特殊な感興がある譯でもなく、殆ど誰にでも出來る樣な仕事の反覆であつて、其處には只營々として倦まざる努力と忍耐があるのみである。かくの如き作業は體驗的に極めて困難な作業に違ひない。されば我が國に於ける上農と下農の別は全く除草に力むると怠るとの別である。未だ草を見ずして草を採る者が上農であり、草を見て草を採る者が中農である。下農とは草を見て草を採るを怠る者である。倦まざる努力と絶へざる忍耐こそ日本農民が其生活體驗の中に學んだ高い德の一つである。

知識と技術を學んだ丈では、未だ一人前の日本の百姓ではない。其名に値するには絶えざる努力と倦まざる忍耐をどこまでも續け得る精神的鍛鍊が心根に徹して居なければならぬ。

日本人は感じ易くさめ易く直ぐに飽き易い性質をもつて居るから長期抗戰は其最も不得手とするところであると云ふ人がある。然しそれは思ふに皮相の見でしかあり得ない。最も正當な意味に於ける日本人の性格は當然農民としての生活經驗の中に培はれて來て居るからである。久しい間國民の大部分を占めて來た農民に於いては、堅忍持久の態度は其長い歷史の間の生活の內に不斷に訓練を重ねて來たところである。只江戶時代の町人の間には一時に逸る淺慮輕薄の態度を殊更に尙ぶ風があつた。都市が昔も今も文化的に支配的である爲に此江戶時代の町人の風が一見國民の間に一般にも存して居る樣に思はれがちであるが、全般的に見れば日本國民の性格は農民が其久しい体驗の中に作り上げて居る性格を基礎として居るものである。其は羊の樣に溫良で、牛の如くにねばり强く、而して一度猛然と怒れば虎の如くに勇敢なる農民の性格である。

興亞の聖業は尙ほ相當の歲月を要するであらう。所謂長期抗戰は尙ほ五年つづくか十年續くか分らない。それが何年續かうと、我が國民は牛の如くにねばり强く虎の如くに猛く此難局を打開しなければ止まないであらう。

愈々又梅雨に入り、田にも畑にも雜草が日毎夜毎に伸びて居る。だが銃後を護るどこの農家でも皆鎌を砥いで待つて居る。（芒亭）

我國畜產と獸醫學

柏岡民雄

皇紀二千六百年、各務の學園に獸醫學科が新設せられて農學に關する綜合專門學校としての本校が一段の飛躍をなし、新興の意氣と之を育むもの、熱意とが渾然融合して茲に新しい歷史が作られつゝあることは誠に慶ばしい限りである。此の際校友諸君に獸醫學の何たるかを御紹介することは新設獸醫學科の相貌を諒解して戴く事にもならうかと思ひ文藝部の需めに應じて筆を執ることにした。もと

より匆忙の中に筆に任せて書き流すのであるから至らぬ節の多々あることゝ思ふが御容赦を願ひ度い

先づ獸醫學と一般醫學との異同に就いて考察するに、醫は仁術なりと言ふ點と研究の方法とは全く同一である。卽ち人類も一般動物もその生命現象は共通の根本原則に從ふとするのである。而し醫の目的に於て前者が主として經濟動物である家畜（家禽を含む）であるに對し後者は直接人類の衛生並びに治療を扱ふ所に第一義的な相違がある。而し人畜共通の疾病並びに病原体に關しては兩學一致協力して之が研究に當るので人畜共通の疾病とは例へば狂犬病（恐水病）、結核、炭疽（腫脫疽）、鼻疽等である。兎に角人類疾病の治療には獸醫學は直接關與しないが豫防には前記外にも可成り廣範圍に涉つて關與してゐるのである。

次に獸醫學と畜產の關係如何と言ふに、兩者は車の兩輪の如き密接不離の關係にあると言はねばならない。畜產の興亡と共に獸醫學は盛衰し、獸醫學なくしては畜產は健全な發展を遂げることが出來ないのである。

葛西博士（北里研究所）の歐米獸醫學界見聞錄からその二、三の狀況を引用して我國のそれと比較すれば、今日破竹の勢で歐洲を風靡しつゝあるナチス獨逸は獸醫學に於ても最高教育機關として、伯林獸醫科大學、ハノーヴアー獸醫科大學、ギーセ大學獸醫學部、イエナ大學獸醫學教室及家畜衛生學教室、ライプチツヒ大學獸醫學部等を有し、ライプチツヒ大學獸醫學部は元來獨立の獸醫科大學としてドレスデンに置かれてあつたのを一九二三年こゝに轉して此の大學の一學部となしたのであるが戰後窮迫の極にあつた獨逸が大枚百萬圓からの大金を投じて一獸醫學部のために壯大なる建築を起したと言ふことであるがに之のみを以てしても獨逸が當時如何程斯學を重視してゐたかがあると思ふ。次にソビエート、ロシアでは帝政時代には今日のソ聯よりは地域的には遙かに廣大であつた當時に於て僅かにカザン、リコフ、ワルシヤウ（波蘭）ドルパート（エストニア）の四大學で現在のソ聯の領域にはその時代僅かに二大學が有るのみであつたと言ふが一九一八年の革命後ソ政權は學々と學校の增設を計り現今ではスコー、カザン、キエフ、ハリコフ、オムスク等十七大學を數ふるに至り中等程度の獸醫學校は三、四十あるとのことで元のモスコー畜產科大學などは、モスコー獸醫科大學、同牛科大學、同豚科大學、同羊科大學、同家兎毛皮獸科大學、同家禽科大學に分割せられ、モスコー獸醫科大學は更に豫防獸醫科、治療獸醫學科及馬學科の三學科を含み之に赤軍獸醫官講習會が附屬してゐる。而して前記各獸科大學に於て夫々專門に就いて極めて集約的な教育を施してゐると言ふ事である。修業年限は何れも三ケ年半乃至四ケ年と言ふしスコー羊科大學の如きは學生總數一千名、職員は教授以下百五十名と言ふからちよつと驚かされる。又女の學生も相當多いと言ふ事である。賢明なる政府當局は獸醫教育機關の擴張のみを以て滿足せず進んで各種機關の發展充實に一層の力瘤を入れモスコーの郊外に大